

# さあ、地域ではくも 子どもたちと ふれあおう！



今回は、「さわやか子ども広場」にも参加して、子どもたちの地域の居場所づくりに努力している新潟県長岡市の赤城コマランドの取り組みを紹介する。(取材・文／有馬 正史)

「赤城コマランドは、長岡市近郊の里山に立地し、その広さは3万坪という広大なもので、子どもたちや大人にとっても格好の遊び場となっています。365日、24時間、いつでも、誰でも、断りなしに無料で使える冒険遊び場です。何をやっても自由ですが、「ロマンと冒険の森づくり」に沿って遊んでくださいね」と話してくれたのは、現役サラリーマンで赤城コマランド世話役の山川成雄さん。市立四郎丸小学校のPTA会長をしていた時に、前会長でその後3000坪の山を提供してくれた駒村精吾さんと出会い、意気投合して2000年1月1日に赤城コマランドを設立した。現在は長岡市の協力も得てステージは3万坪に広がっている。

融通無碍が団体の心情だと言う。駒村さんは「親父」、山川さんは「世話役」、そして会計は「勘定役」。その他に「事務方」がいる。「勘定役」は当時PTA役員で酒屋を営む小林守さん。小林さんは「自分も山の生まれだったのに、それを忘れていた。山川さんと話しているうちに、山での遊び方なら知ってるよということで、参加するようになつた。子どもたちには何をさせようというのではなく、自然を自分から体験して気づいてもら

うことを心がけています。学校は、教えるところ。私たちのところは、気づくところ。自然是正直で絶対に裏切れません。子どもたちの周りには、マタギ衆が70名います。マタギ衆は、自分自身で任免します。3分の2がお父さんたち。80歳代から、20歳代までさまざまな世代が関わっており、核になつて動いてくれる方は20人ぐらいですね。話し合いは、公民館や居酒屋、ログハウスなどです。

でも、世話役の役割が大きいですね」と話す。山川さんは、「こここの山で遊ぶ人たちをコマランダ一といい、約1500人います。その他にも多くの人たちが参加しています。子どもたちにはバーチャルでない本物の世界を体験させたいと思ってます。山にいろんな人たちが関わってくれることで、最近は地区でもみんなが知り合いになり、挨拶するようになりました。コミュニケーションづくりにも寄与しているんですよ」と嬉しそう。

山によく出かけるという四郎丸小学校6年生の田村真理さん、林尚君、石井海十君の3人に話を聞くことができた。田村さん、「9回くらい行っています。友だちとトレッキングコースで遊んだり、ブランコとか、火で焼き芋や

一緒に山を回ったり、火をおこしたり、そこらの木でいろんなものを作つたりして遊んでいます。自然があつてとっても楽しい。学校と山はどちらともいえないけど山の方が多いかな。大人になつたら植えた木で何かをしたい」。石井君、「今まで何回も行っています。家族と行くことが多いです。木を切つたり焚き火の当番をしたり、火をおこしたりして楽しいです。学校の授業でも土器を焼きに行つたりしています」。



3人は、大人になつたら子どもたちに教えてあげたいと口々に言つていた。  
山川さんは、山が子どもたちに社会性を育てるくれると言う。自然との遊びの中で、ケガから痛みを学び、共同で何かをやることの大切さを自然に学ぶと言う。このような、子どもたちを縛らない自由な空間で、子どもも大人も自由な時間を過ごしてみてはどうだろうか。その先に、何かが見えてくるかも知れない。



豪快に、そして慎重に  
バームクーヘンを焼く



CONTENTS

2005年7月号